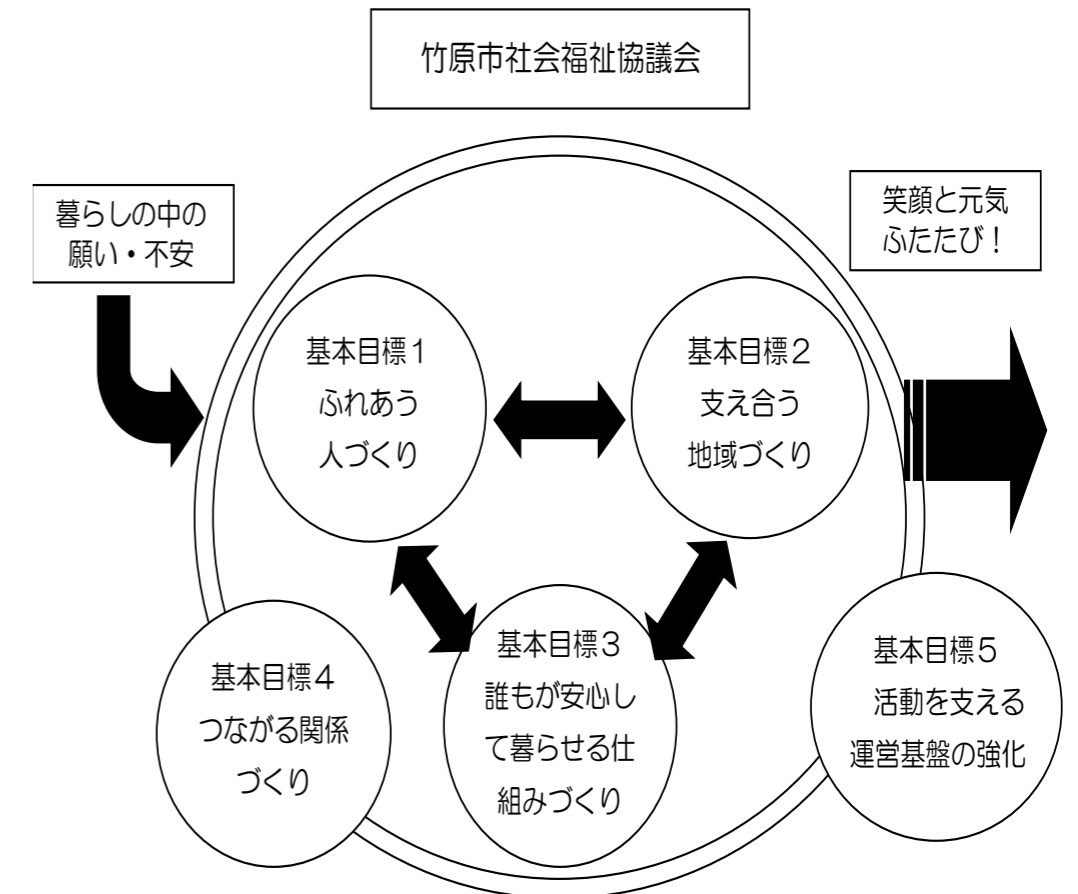
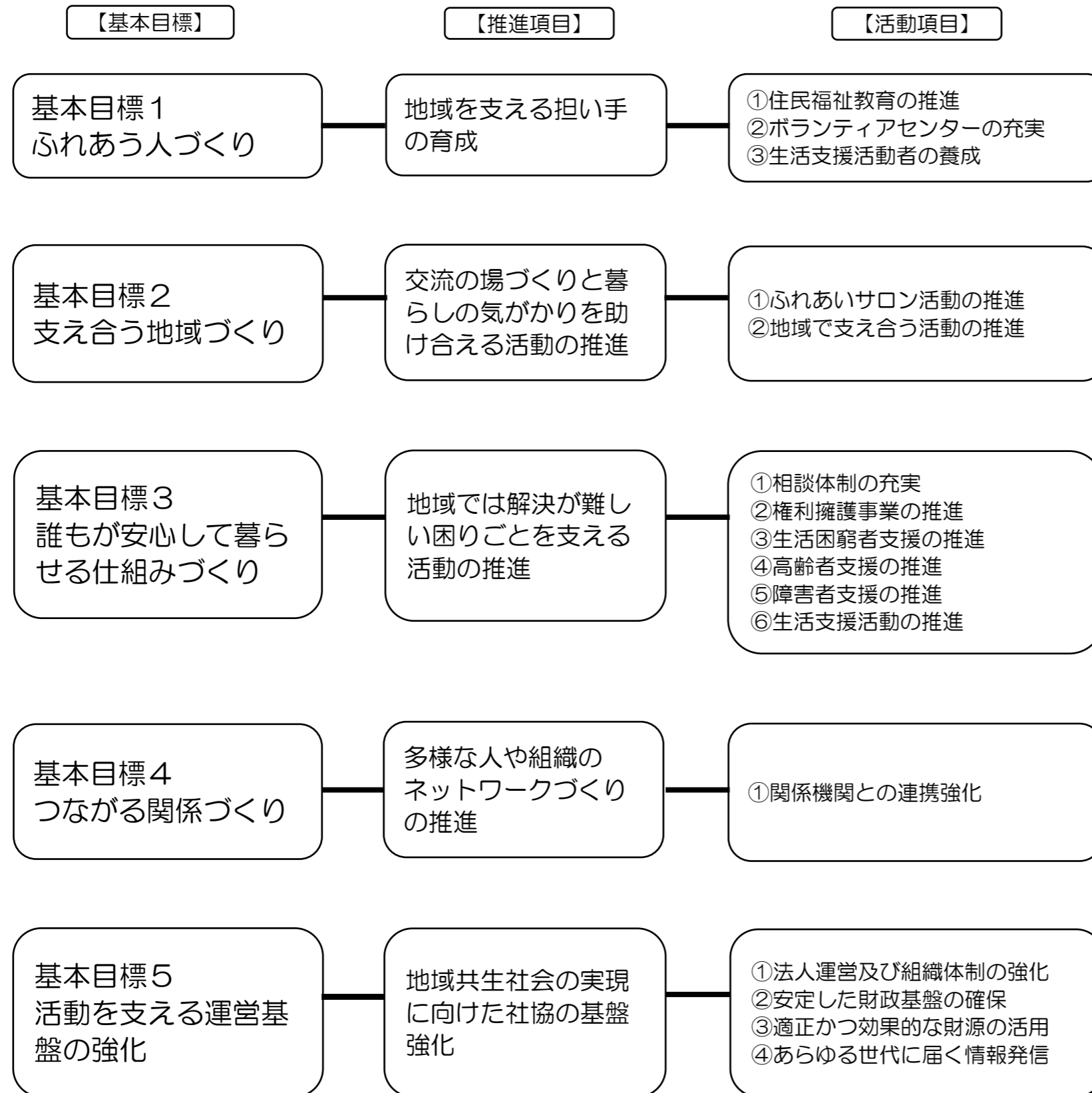


「新あったか福祉e-まちプラン」～第4次 竹原市社会福祉協議会地域福祉活動計画2023～【概要版】

【スローガン】 やっぴりええね地域の輪 ご近所・町内・竹原市
 【計画の期間】 令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)

計画の5つの柱の関連性

竹原市社会福祉協議会を支える5つの柱のイメージ



住みなれた地域で安心して暮らしていくためには、住民同士がつながりを深め、支え合える関係を築くことが大切です。
 この計画は、地域で暮らす一人ひとりの困りごとを、そのままにしない・ほっとかない、お互いに支え合う「地域共生社会」の実現を目指しています。
 地域で活動する担い手の養成や、支え合う体制づくりに向け、住民福祉教育の推進や多様なボランティアの養成などを通じて、日常的な見守り活動や地域を支える担い手を育成する「ふれあう人づくり」を進め、地区社協エリアにおける地域の生活課題を住民同士で話し合い(協議の場)・助け合う「支え合う地域づくり」を、関係機関・団体と連携し取り組むことで、地域で支え合える活動に発展し、地域の生活課題の解決につながります。
 また、相談者の属性(高齢者・障害者・子供・生活困窮)や世代、相談内容に関わらず、包括的に相談を受け止める包括的な相談体制を整備し、生活支援活動の充実や権利擁護事業の推進等に取り組み「誰もが安心して暮らせる仕組みづくり」を推進することで、誰もが安心して暮らせる地域につながります。
 さらに、ぬくもりを感じる地域の輪をご近所から町内へ、そして竹原市全体へ広げて行くためには、多機関協働事業の推進や各種委員会・協議会等へ参画し、地域住民と関係機関や専門職が一体となって課題解決を目指し、地域共生社会の実現に向けて取り組む「つながる関係づくり」がなければなりません。
 そして、これらの活動を推進して行くためには、安定した財政基盤の確保や組織体制の強化、効果的な財源の活用等、活動を支える運営基盤の強化が重要となります。それぞれの柱の関連性を大切に、基本目標が達成できるよう、活動項目を実行していきます。